独立行政法人 物質・材料研究機構
National Institute for Materials Science

専門図書館から見る
電子ジャーナル購読とオープンアクセス

（独）物質・材料研究機構 企画部門科学情報室長
谷藤　幹子

2014年7月24日(木)
特定非営利活動法人 UniBio Pressセミナー / J-STAGEセミナー
シリーズ 学術出版を学ぶ(6) ◆国内外における電子ジャーナル購読、販売等の現状とOpen Access◆

独立行政法人 物質・材料研究機構
National Institute for Materials Science

目次

I. 専門図書館の仕事
1. 伝統的に必ずある
2. 今世紀に新しく
3. 過去5年
4. 近年
5. 将来

II. 図書館からみる電子ジャーナル
1. Eリソース環境
2. 利用状況を知る
3. 投資効果を評価する
4. 購読の計画を立てる
5. 契約・合意、そしてEリソース更新

III. ジャーナル出版者への3つ提言
1. 今日の購読問題
2. これからは出口思考
3. 読まれてこそ科学論文ー新しいオンライン購読方法の提案

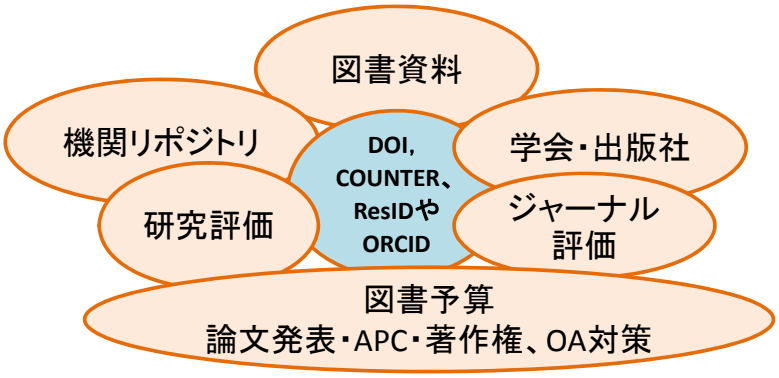
今日のキーワード

- Eリソース：オンラインで閲覧する資料を指す（雑誌、本、辞書、データベース等）
- COUNTER：Eリソースのアクセス数を，資料単位で、世界標準のルールに準拠して集計するダウンロード回数
- オープンアクセス：版元での出版費・著者権の適切な設定により，無料で閲覧できる資料
- ベンチマーク：比較のために用いる指標

I. 専門図書館の仕事

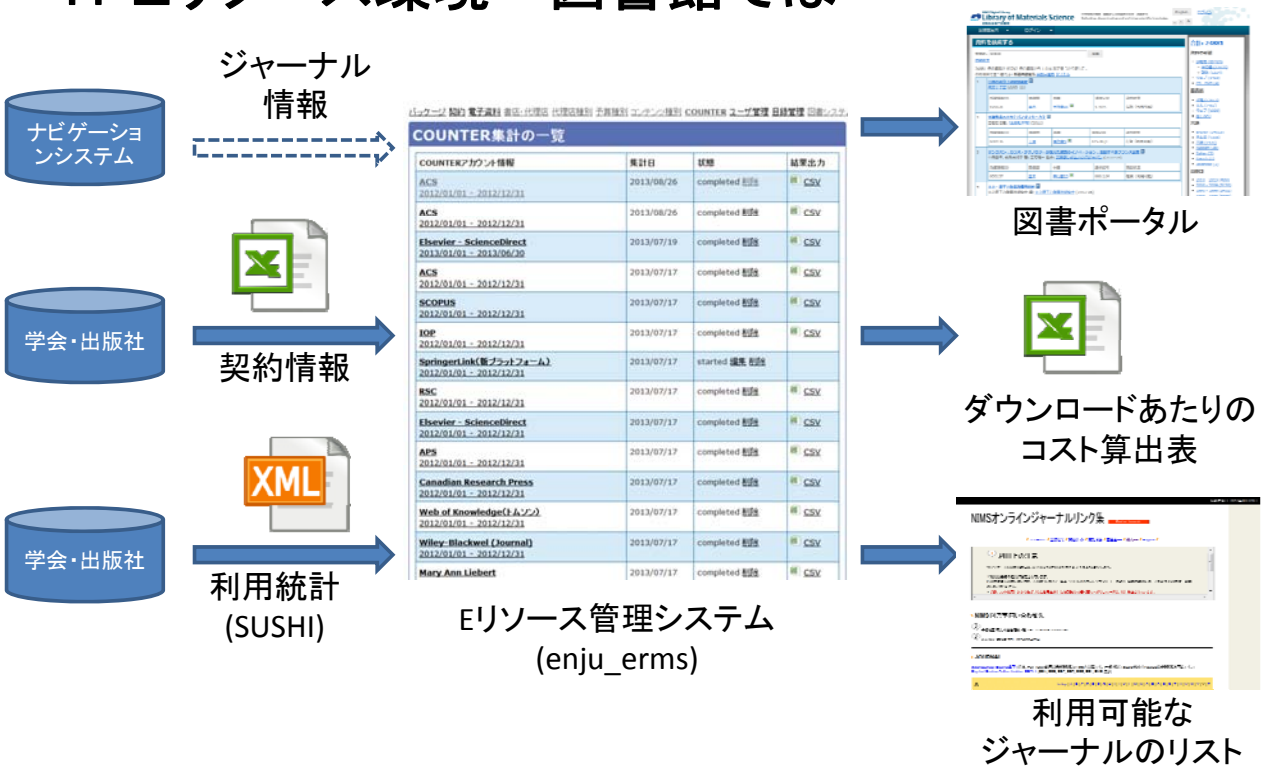
5. 将来

20. 図書館員は何でもできなければならない(？！)



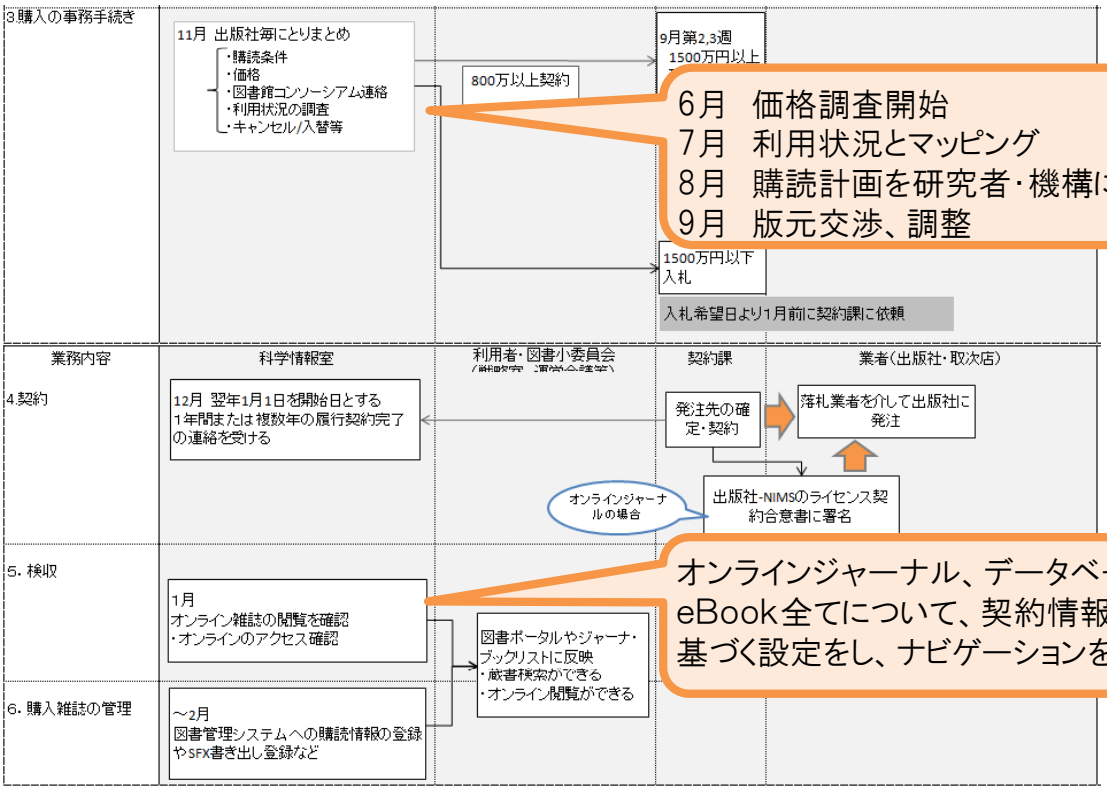
II. 図書館からみる電子ジャーナル

1. Eリソース環境ー図書館では



II. 図書館からみる電子ジャーナル

5. 契約・合意、そしてEリソース更新



6月　価格調査開始
7月　利用状況とマッピング
8月　購読計画を研究者・機構に提示
9月　版元交渉、調整

オンラインジャーナル、データベース、eBook全てについて、契約情報に基づく設定をし、ナビゲーションを確認

III. 図書館からみる電子ジャーナル

1. 今日の購読問題ー図書館の認識

1. ジャーナル購読の価格上昇は続く。
2. オープンアクセスジャーナルが増えても、投稿先の選択肢は増えるが、ジャーナル需要・供給問題の本質を解決することにならない。
3. 図書館コンソーシアム(団体契約)やパッケージ購読をすることは、大規模機関に有効である場合があるものの、ジャーナル需要・供給問題の本質を解決することにならない。

ジャーナルの価格は下がらない

① 国際的に論文数は(今のところ)増加傾向が続いている
② ジャーナルは一般に代替え品が存在しない(価格競争が成立しにくい)特殊な市場である
③ (今のところ)科学者は有名誌・高評価誌に論文出版先を選ぶ傾向が強い

参考:文部科学省>ジャーナル問題に関する検討会

III. 図書館からみる電子ジャーナル

2. これからは出口思考ー出版者へのメッセージ

■ 世界に匹敵して日本が優れていることを強調 “Japanブランド”

1. 論文を適切に・迅速に査読をする「日本の編集・査読」の水準の高さは、依然として世界に誇れる文化ではないか。
2. 査読済み論文を、正確に・確実に出版をする「日本の制作・出版」の水準の高さは、さらに世界に誇れる文化ではないか。

しかしー

3. オンラインジャーナルとは、掲載可論文をインターネットでPDFで読めるようにするというだけではなく、付加価値を付けることによって、質の高さを強調し、アピールする「広報、販促」が不足しているのではないか

これはー

4. （国策に身を任せるだけではなく）学会・出版者が、学問領域に相応しい特徴・強みを知り、学会内外・日本内外に積極的に発することが、出口政策として必要なのではないか。

少なくとも、図書館からは
日本発ジャーナルが他誌に比べて何が良いのか、
どのようなサービスを提供しているのか、よく見えない

III. 図書館からみる電子ジャーナル

2. これからは出口思考ー出版者へのメッセージ

■ 例えば

- 適切・迅速な査読「日本の編集・査読」
  → 有料のJapan peer review service
  → 学会員のボランティア活動⇒優秀な査読者に、有償の還元（価値評価）を
  試算例：1論文15000円で査読（二回まで） × 月2論文 ＝ 年36万円
  採択率50%のOA誌（年125論文）のトリアージに使うと、年375万予算規模
- 正確・確実な出版「日本の制作・出版」
  → XMLデータ制作⇒紙印刷、オンライン出版⇒書籍化・マルチメディア・テーマで再構成
  → 日本語と英語に対応する

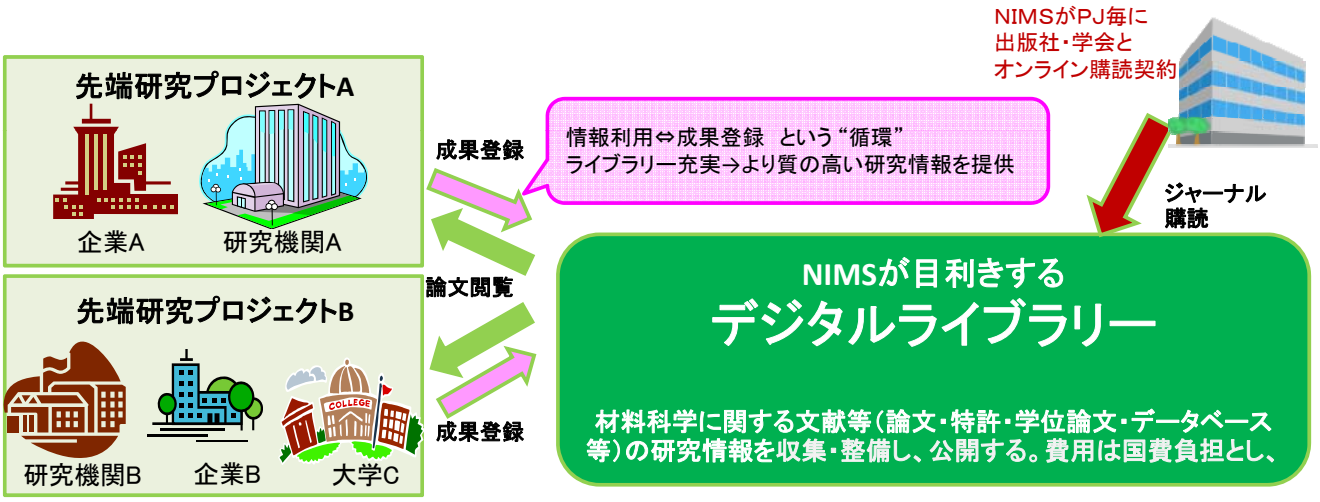
■ 例えば

オンラインジャーナルプラットフォーム（ジャーナル機能）で勝負する場合
①付加価値というアイデア、②顧客にサービスをするという営業、③競合誌に優る特徴、そして④セキュアでウェブトレンドをキャッチする技術力と資本力

これには相当な資金・人的投資が必要。

III. 図書館からみる電子ジャーナル

3. 読まれてこそ科学論文
ースマート認証オンライン購読の提案



スマート認証
- 機関（NIMS）は、NIMSが中核となる研究プロジェクト（PJ）毎に属するPJ研究員を利用者として（従来のFTE相当）、利用者認証をホストし、版元とアクセスライセンスを契約

III. 図書館からみる電子ジャーナル

3. 読まれてこそ科学論文
ースマート認証オンライン購読の提案

スマートであるポイント
1. 機関（NIMS）は、NIMSが中核となる研究プロジェクト（PJ）毎に必要なジャーナルだけ購読。PJ期間終了とともに購読も終了
2. PJ研究員は、NIMSがホストするSubject Repositoryに研究成果を登録する。NIMSは適切なアクセス管理のもと、オープンアクセスプラットフォームを提供　→先端研究成果を社会に公開

メリット
■組織の運営交付金減という問題に対し：
1. 競争的外部資金（科研費など）は、定期刊行物の購読料には使えない（外部資金は申請者のみが使える場合に限る）
   ⇒　申請者を利用者としてグループ認証する仕組みがあれば良いのでは？
2. 競争的資金をとる先端研究は、まさに最新論文に自在にアクセスできる環境であるべき
   ⇒　研究資金に応じたアクセスが確保できる
■　組織の共通情報基盤という問題に対し：
3. 共通利用性の高いジャーナル、アーカイブに価値があるジャーナルに特化に公開

まとめ

一. 論文として研究成果をだしても、読むことができないのでは本末転倒

二. 読めると言っても、研究費を圧迫したり、手間や時間がかかる取得方法は研究時間を阻害する(OA以前の問題)

三. 出版者は臨機応変に対応すべし、再び研究者個人へ焦点をあてて ニーズに合ったカスタマイズを可能に。

I. 専門図書館の仕事

1. 伝統的に必ずある
2. 今世紀に新しく
3. 過去5年
4. 近年
5. 将来

II. 図書館からみる電子ジャーナル

1. Eリソース環境
2. 利用状況を知る
3. 投資効果を評価する
4. 購読の計画を立てる
5. 契約・合意、そしてEリソース更新

III. ジャーナル出版者への3つ提言

1. 今日の購読問題
2. これからは出口思考
3. 読まれてこそ科学論文ー新しいオンライン購読方法の提案